#### 当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/海外/株式
信託期間	2023年3月7日まで(2013年5月28日設定)
運用方針	次世代米国代表株マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として米国において取引されている次世代の米国経済の主役となり得ると委託会社が判断した企業の株式に投資を行い、信託財産の成長をめざします。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主要運用対象	ベ ビ ー 次世代米国代表株マザーファンド ド受益証券を主要投資対象とします。 マ ザ ー 米国の株式を主要投資対象としファンド ます。
主な組入制限	株式への実質投資割合に制限を ベ ビ ー 設けません。 ファンド 外貨建資産への実質投資割合に 制限を設けません。 株式への投資割合に制限を設け
	マ ザ ー ません。 ファンド 外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

## 運用報告書(全体版)

# 次世代米国代表株ファンド

愛称:メジャー・リーダー

第18期(決算日:2017年12月7日) 第19期(決算日:2018年3月7日)



### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。 さて、お手持ちの「次世代米国代表株ファンド」は、 去る3月7日に第19期の決算を行いましたので、法令 に基づいて第18期~第19期の運用状況をまとめてご 報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い 申し上げます。



## 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号 ホームページ https://www.am.mufg.jp/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用 フリーダイヤル 0 1 2 0 - 1 5 1 0 3 4 (受付時間:営業日の9:00~17:00、

土・日・祝日・12月31日~1月3日を除く)

│ お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

<sup>※</sup>公募株式投資信託は税法上、「NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)」の適用対象です。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## ■ファンドマネージャーのコメント

当作成期の運用で主眼を置いたポイントをご説明させていただきます。

#### (投資環境についての考え方)

米国の景気と企業業績は引き続き拡大局面にあると判断しました。米連邦準備制度理事会(FRB)による追加利上げは予想されるものの、企業業績の拡大を背景に市況の上昇トレンドは続くと想定し、業績拡大余地のある個別銘柄への投資妙味が大きいものと考えました。当作成期中においては、市況上昇により、一部銘柄では株価の割安感が薄れたことも事実であるため、今後の成長余地、株価水準などを踏まえた銘柄選択がますます重要となったと判断するに至りました。

#### (ポートフォリオの構築についての考え方)

当ファンドは、米国の株式を実質的な主要投資対象とし、値上がり益の獲得をめざし、今後の経済環境、社会構造に関する見通しを基に、変化に対応し成長が見込まれる投資銘柄を厳選し、約30銘柄に投資を行ってまいりました。主として米国の強みであるインターネット、バイオなどの重要性の高まりや、ミレニアル世代台頭に伴う小売分野の構造変化を踏まえた新しい企業の成長に注目しました。同時に、伝統的な老舗企業でありながら、絶え間ない自己革新により環境変化に対応する企業にも目を配りました。当作成期首と当作成期末を比べますと、9銘柄の入れ替えを行っています。新規に組み入れましたヘルスケア業種の「INTUITIVE SURGICAL INC」や情報技術業種の「ASML HOLDING NV-NY REG SHS」などは、新しい技術やサービスを武器に次世代の主役となりうる企業と判断しました。同時に、素材業種の「VULCAN MATERIALS CO」、資本財・サービス業種の「STANLEY BLACK & DECKER INC」などは、確かなものとなりつつある米国景気回復の恩恵を大きく受けると判断し、組み入れを行っています。

このような運用を行いました結果、為替が円高・米ドル安に振れたことはマイナス要因となったものの、株式市況の上昇ならびに「BOEING CO/THE」、「CATERPILLAR INC」などの組入銘柄の値上がりにより、基準価額は当作成期首に比べ11.1%(分配金再投資ベース)の上昇となりました。



株式運用部 ファンドマネージャー

安井 陽一郎 村山 信明 長田 直樹 西 直人 加藤 明 佐相 兼呂

#### 本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- 一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

## 〇最近10期の運用実績

Sela	hoho	Ha	基	準	Б	額	( 参 考 ダウ・ジョーン	指数) ズ工業株価平均	株式	株式	純	資 産
決	算	期	(分配落)	税 込 み分 配 金	期騰	中落 率	(円換算ベース)	期中騰落率	組入比率	先物比率	純総	額
			円	F		%		%	%	%		百万円
10期(2	2015年12月	7日)	10, 107	100	)	14.3	13, 964	14. 7	96. 0	_		60, 422
11期(2	2016年3月	7日)	8, 637	(	)	△14.5	12, 276	△12. 1	95. 5	_		54, 905
12期(2	2016年6月	7日)	8, 539	(	)	△ 1.1	12, 217	△ 0.5	96. 2	_		53, 279
13期(2	2016年9月	7日)	8, 288	(	)	△ 2.9	11, 930	△ 2.3	96. 9	_		50, 357
14期(2	2016年12月	7日)	9, 344	(	)	12.7	13, 955	17. 0	96.8	_		53, 267
15期(2	2017年3月	7日)	10,000	123	3	8.3	15, 163	8. 7	89. 3	_		51, 300
16期(2	2017年6月	7日)	9, 880	(	)	△ 1.2	14, 697	△ 3.1	90.0	_		46, 487
17期(2	2017年9月	7日)	10,000	296	5	4.2	15, 117	2. 9	90.0	_		39, 692
18期(	2017年12月	7日)	10,000	1, 262	2	12.6	17, 243	14. 1	92. 9	_		32, 968
19期 (2	2018年3月	7日)	9, 867	(	)	△ 1.3	16, 686	△ 3.2	90. 5	_		40, 075

- (注) 基準価額の騰落率は分配金込み。
- (注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。
- (注) ダウ・ジョーンズ工業株価平均(ダウ工業株30種)とは、ダウ・ジョーンズが米国を代表する30銘柄を選出し指数化したものです。日本では、「ダウ平均」、「NY (ニューヨーク) ダウ」、「ダウ工業株30種」などと呼ばれています。当ファンドは、委託会社等の責任のもとで運用されるものであり、ダウ・ジョーンズは、その運用成果および当ファンドの取引に関して、一切の責任を負いません。ダウ・ジョーンズ工業株価平均(円換算ベース)は、ダウ・ジョーンズ工業株価平均をもとに、委託会社が計算したものです。
- (注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。
- (注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。
- (注) 「株式先物比率」は買建比率 売建比率。

## 〇当作成期中の基準価額と市況等の推移

決	算	期	年	月	日	基	準	価		額	<ul><li>( 参 考</li><li>ダウ・ジョーン</li><li>(円換算ベース)</li></ul>	指ズ工業騰	数 <u>*</u> 株価 <sup>-</sup> 落	) 平均 率	株組	入	式 比 率	株先	勿上	式 × 率
								騰	落	率	(円換昇ペース)	爄	浴	_						
				(期 首)			円			%				%			%			%
			20	17年9月	7 日		10,000			_	15, 117			_			90.0			_
				9月末			10,586			5.9	16, 018			6.0			97.3			_
	第18期			10月末			10,897			9.0	16, 774		1	1.0			97.3			_
			11月末			11, 102		1	1.0	17, 030		1	2.7			96.5			_	
				(期 末)																
			20	17年12月	7 日		11, 262		1	2.6	17, 243		1	4. 1			92.9			_
				(期 首)																
			20	17年12月	7 日		10,000			_	17, 243			_			92.9			_
				12月末			10, 309			3. 1	17, 818			3.3			97.4			_
	第19期		20	018年1月	末		10, 468			4.7	18, 010			4. 4			96.8			_
				2月末			10, 236			2.4	17, 321			0.4			96.4			_
				(期 末)																
			20	18年3月	7 日		9,867		$\triangle$	1.3	16,686		$\triangle$	3.2			90.5			_

<sup>(</sup>注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

<sup>(</sup>注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

<sup>(</sup>注) 「株式先物比率」は買建比率 - 売建比率。

## 運用経過

当作成期中の基準価額等の推移について

(第18期~第19期:2017/9/8~2018/3/7)

基準価額の動き

基準価額は当作成期首に比べ11.1% (分配金再投資ベース) の上昇となりました。



第18期首:10,000円 第19期末:9,867円 (既払分配金1,262円) 騰落率:11.1% (分配金再投資ベース)

・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより 異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益 の状況を示すものではない点にご留意ください。

### 基準価額の主な変動要因

上昇要因	米国株式市況全体の上昇や組入銘柄の値上がりが、基準価額の上昇要因と なりました。
下落要因	為替が円高・米ドル安に振れたことなどが、基準価額の下落要因となりました。

### 投資環境について

(第18期~第19期:2017/9/8~2018/3/7)

#### ◎米国株式市況

・当作成期の市況は、上昇しました。株高の継続や堅調な住宅価格を受けて、消費マインドが一層の改善を示し、小売売上高が堅調に推移したこと等、米国景気の拡大傾向が好感されました。米国企業の業績も好調に推移した他、税制改革法案成立により景気加速の公算が高まったことも市況への追い風となりました。2018年2月に入りますと、強めの賃金上昇率等から市場の期待インフレが上昇、利上げ回数の上方修正が意識され、市況が調整する局面もみられました。しかしながら、景気と企業業績は依然として好調なことから下値では一定の買いが入り、調整の後は反発を経て、もみ合い局面となり作成期末を迎えています。

#### ◎為替市況

・当作成期首に比べ、対米ドルで3.3%の円高・米ドル安となりました。

## 当該投資信託のポートフォリオについて

🦷 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

#### <次世代米国代表株ファンド>

・次世代米国代表株マザーファンド受益証券を通じて米国株式に投資を行いました。

### <次世代米国代表株マザーファンド>

基準価額は当作成期首に比べ12.1%の上昇となりました。

- ・米国の株式を主要投資対象とし、値上がり益の獲得をめざして運用を行いました。銘柄 選定にあたっては、今後の経済環境、社会構造に関する見通しを基に、変化に対応し成 長が見込まれる投資銘柄を厳選し、約30銘柄に投資を行いました。
- ・なお当作成期においては以下の銘柄入れ替えを行っています。
- ・ヘルスケア業種:バイオ企業の「CELGENE CORP」、総合ヘルスケア企業の「JOHNSON & JOHNSON」を売却し、高度外科手術システムを扱う「INTUITIVE SURGICAL INC」、歯列矯正機器の開発と販売を行う「ALIGN TECHNOLOGY INC」の組み入れを行いました。
- ・資本財・サービス業種:共に産業関連大手の「UNITED TECHNOLOGIES CORP」、「FORTIVE CORP」を売却し、制御装置大手の「ROCKWELL AUTOMATION INC」、電動工具大手の「STANLEY BLACK & DECKER INC」の組み入れを行いました。
- ・生活必需品業種:生活関連用品大手の「PROCTER & GAMBLE CO/THE」を売却し、業務用食 材販売を営む「SYSCO CORP」の組み入れを行いました。
- ・一般消費財・サービス業種:コーヒーチェーン大手の「STARBUCKS CORP」を売却し、ハンバーガーチェーン大手の「MCDONALD'S CORP」の組み入れを行いました。

- ・情報技術業種:ソーシャルネットワーク大手の「FACEBOOK INC-A」を売却し、半導体製造装置大手の「ASML HOLDING NV-NY REG SHS」の組み入れを行いました。
- ・エネルギー業種:石油サービス大手の「SCHLUMBERGER LTD」を売却し、同業の「HALLIBURTON CO」の組み入れを行いました。
- ・素材業種:総合化学大手の「DOWDUPONT INC」を売却し、建設資材大手の「VULCAN MATERIALS CO」の組み入れを行いました。
- ・また、企業ごとの業績動向を踏まえつつ、株価の動きに対応した個別銘柄の組入比率調整を随時行っています。

銘柄入れ替えのポイントは以下の通りです。

#### ◎新規組入銘柄

- 「INTUITIVE SURGICAL INC」: 高い成長が見込まれる高度外科手術システム分野において、機能的に優れた製品を提供していることを評価。
- 「ALIGN TECHNOLOGY INC」:取り扱う歯列矯正機器の性能的な優位性とマーケティング
  力を評価。
- 「ROCKWELL AUTOMATION INC」: 今後自動化が進む北米地域の工場からの需要増を期待。
- 「STANLEY BLACK & DECKER INC」:景気回復の恩恵を広範に受けることを評価。
- ・「SYSCO CORP」:食材配送業界において、システムの効率性と事業規模での優位性を有していることを評価。
- ・「MCDONALD'S CORP」: 朝食メニューを終日提供に拡大する等のメニューの改善が功を奏し、既存店売上が底打ちしたことを評価。
- 「ASML HOLDING NV-NY REG SHS」:最先端製品での技術力の優位性を評価。
- · 「HALLIBURTON CO」:原油価格上昇の恩恵を大きく受けることを評価。
- ・「VULCAN MATERIALS CO」:米国景気の全般的な拡大、ならびに予想されるインフラ投資増大の恩恵を受けることを評価。

### ◎売却銘柄

- ・「STARBUCKS CORP」: 既存店売上の伸び悩み懸念。
- ・「CELGENE CORP」:業績の下方修正、新薬開発が順調に進展していないことへの懸念。
- 「JOHNSON & JOHNSON」、「UNITED TECHNOLOGIES CORP」、「FORTIVE CORP」、「PROCTER & GAMBLE CO/THE」、「FACEBOOK INC-A」、「SCHLUMBERGER LTD」、「DOWDUPONT INC」:特に悪材料はなかったものの、成長性の観点から新規組入銘柄との比較において、相対的魅力度が低下したと判断し、売却。

以上のような投資判断を行った結果、組入銘柄の株価上昇により、基準価額は上昇しました。パフォーマンスに寄与・影響を与えた主な銘柄は以下の通りです。

#### (プラス要因)

#### ◎銘柄

- 「BOEING CO/THE」: 高い参入障壁を評価したことに加え、民間航空部門における受注回 復を期待し、当作成期首より保有しました。受注、業績が順調に推移し、株価が上昇し ました。
- 「CATERPILLAR INC」: 米国景気回復やインフラ投資増による建機需要の回復を見込み、 当作成期首より保有しました。業績が順調に推移し、株価が上昇しました。

#### (マイナス要因)

#### ◎銘柄

- ・「CELGENE CORP」:バイオ企業としての新薬開発力の高さや既存薬品の成長余力等に注 目し、当作成期首より保有しました。しかしながら、新薬の開発が順調に進展せず、業 績の先行きへの不透明感が高まり、株価が下落しました。業績不透明感の高まりを受 け、全株売却しました。
- 「MCDONALD'S CORP」:朝食メニューを終日提供に拡大する等のメニューの改善が功を奏 し、既存店売上が底打ちに転じたこと等を評価し、当作成期中に新規に組み入れを行い ました。新しいバリューメニューが低調な滑り出しという見方が一部で広がり、株価は 調整しました。中長期的な既存店売上の回復傾向に変化はないという判断から継続保有 としています。

2018年2月末

### (ご参考)

# 業種別構成比

# 2017年8月末

#### 電気通信サービス 電気通信サービス 1.93% 1.42% 1. 29% エネルギー エネルギー 5.48% 資本財・サービス 5.33% 資本財・サービス 22. 20% 生活必需品 生活必需品 24. 57% 5 62% 6.93% ヘルスケア 12.71% ヘルスケア 13.27% 情報技術 16.91% 情報技術 17, 46% 一般消費財・サービス 14. 15% 一般消費財・サービス 14.52% 金融 16 72% 金融 16.95%

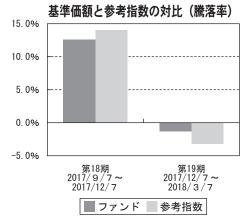
- (注) 比率は現物株式評価額に対する割合です。
- (注)業種はGICS(世界産業分類基準)で分類しています。

### 当該投資信託のベンチマークとの差異について

(第18期~第19期:2017/9/8~2018/3/7)

ベンチマークまたは参考指数と比較することで、期間中の運用内容を評価することができます。

- ・当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンド(ベビーファンド)の基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ・参考指数はダウ・ジョーンズ工業株価平均(円換 算ベース)です。



・ファンドの騰落率は分配金込みで計算していま す。

### 分配金について

プライス 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額(翌期に繰越す分配原資)がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきました。収益分配に充てなかった利益(留保益)につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

## 【分配原資の内訳】

(単位:円、1万口当たり、税込み)

	項目	第18期	第19期		
	項目	2017年9月8日~2017年12月7日	2017年12月8日~2018年3月7日		
当其	明分配金	1, 262	_		
	(対基準価額比率)	11. 206%	-%		
	当期の収益	1, 194	_		
	当期の収益以外	67	_		
翌邦	明繰越分配対象額	115	118		

- (注)対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
- (注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

# 今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

### <次世代米国代表株ファンド>

- ◎今後の運用方針
- ・マザーファンド受益証券を高位に組み入れる方針です。

#### **<次世代米国代表株マザーファンド>**

- ◎運用環境の見通し
- ・ダウ・ジョーンズ工業株価平均は上昇基調で推移していますが、中長期的な上昇トレンドは今後も継続するものとみています。過去数十年の米国株式市況上昇を支えた経済規模の大きさと成長力、巨大な個人消費市場の存在、さらには活発なイノベーションと新陳代謝が盛んな経済構造等は今後も市況上昇の要因になると思われます。
- ・景気循環面でも、米国経済のペースは明らかに拡大局面にあり、株式市況は景気と企業 業績の回復を織り込むものと判断しています。
- ・足下の上昇により、株価の割高感を懸念する向きもありますが、今後の景気と企業業績 の伸長により薄れると判断しています。

### ◎今後の運用方針

・大きな変化が起こっている分野に注目し、変化に機動的に対応し、恩恵を受け得る新しい次世代企業に投資します。現在は、インターネット、バイオ、医療機器などの分野の重要性の高まり、同分野での新しい企業の台頭に注目しています。同時に、絶え間ない自己革新により、環境変化に対応し続けている伝統的な老舗企業にも目を向け、より高い投資成果の達成をめざします。市況上昇により、一部銘柄では株価の割安感が薄れていることも事実であり、今後の成長余地、株価水準などを踏まえた銘柄選択がますます重要となったと判断しています。

### 〇1万口当たりの費用明細

#### (2017年9月8日~2018年3月7日)

項	目	第18期~	~第19期	項 目 の 概 要
	Ħ	金 額	比 率	切り て 安
		円	%	
(a) 信 託	報 酬	81	0.767	(a)信託報酬=作成期中の平均基準価額×信託報酬率× (作成期中の日数÷年間日数)
(投信)	会 社 )	( 39)	(0.370)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書 等の作成等の対価
( 販 売 会	会 社 )	( 39)	(0.371)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等 の対価
(受託会	会 社 )	( 3)	(0.026)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託	手 数 料	22	0. 211	(b)売買委託手数料=作成期中の売買委託手数料÷作成期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
( 株	式 )	(22)	(0. 211)	
(c) 有 価 証 券	取 引 税	0	0.002	(c) 有価証券取引税=作成期中の有価証券取引税: 作成期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
( 株	式 )	( 0)	(0.002)	
(d) そ の 他	費用	1	0.007	(d) その他費用=作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
(保管引	費 用 )	( 1)	(0.005)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
(監査	費用)	( 0)	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合	計	104	0.987	
作成期中の平均	基準価額は、	10,599円で	す。	

<sup>(</sup>注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

<sup>(</sup>注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

<sup>(</sup>注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンド に対応するものを含みます。

<sup>(</sup>注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

### 〇売買及び取引の状況

(2017年9月8日~2018年3月7日)

### 親投資信託受益証券の設定、解約状況

		第18期~第19期								
銘	柄		設	定			解	約		
		口	数	金	額	П	数	金	額	
			千口		千円		千口		千円	
次世代米国代表株マザー	ファンド	6,	561, 925	12,	789, 000	8	, 560, 956	16,	536, 000	

### 〇株式売買比率

(2017年9月8日~2018年3月7日)

### 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	第18期~第19期				
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	次世代米国代表株マザーファンド				
(a) 当作成期中の株式売買金額	70,952,182千円				
(b) 当作成期中の平均組入株式時価総額	40,740,884千円				
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.74				

<sup>(</sup>注) (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

### 〇利害関係人との取引状況等

(2017年9月8日~2018年3月7日)

### 利害関係人との取引状況

# <次世代米国代表株ファンド>

該当事項はございません。

#### <次世代米国代表株マザーファンド>

			第18期~第19期							
区	$\Rightarrow$	買付額等			古什媚學					
	分	具的領守 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{\mathrm{B}}{\mathrm{A}}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{\mathrm{D}}{\mathrm{C}}$			
		百万円	百万円	%	百万円	百万円	%			
株式		35, 012	1, 223	3.5	35, 940	1, 312	3. 7			
為替直物取引	•	14, 638			16, 177	9, 206	56. 9			

平均保有割合 92.0%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

### 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項目	第18期~第19期
売買委託手数料総額(A)	82,169千円
うち利害関係人への支払額 (B)	3,034千円
(B) / (A)	3.7%

<sup>(</sup>注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱 東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、モルガン・スタンレーMUFG証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券です。

### ○組入資産の明細

(2018年3月7日現在)

### 親投資信託残高

Bits	扭	第1	7期末	第19期末				
銘	柄	П	数	П	数	評	価	額
			千口		千口			千円
次世代米国代表株マザー	ファンド		20, 726, 165		18, 727, 134		36	, 688, 329

マザーファンドの組入資産の明細につきましては、マザーファンド頁をご参照ください。

### ○投資信託財産の構成

(2018年3月7日現在)

項		第19期末						
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	Ħ	評	価	額	比	率		
				千円		%		
次世代米国代表株マザーファ	ンド			36, 688, 329		91. 1		
コール・ローン等、その他				3, 570, 759		8. 9		
投資信託財産総額				40, 259, 088		100.0		

- (注) 次世代米国代表株マザーファンドにおいて、作成期末における外貨建純資産(43,740,934千円)の投資信託財産総額(44,367,744千円) に対する比率は98.6%です。
- (注) 外貨建資産は、作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、作成期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

* 1160(1+0 to 2) C 7 6		
1 アメリカドル=105. 62円		

# ○資産、負債、元本及び基準価額の状況

	77	第18期末	第19期末
	項    目	2017年12月7日現在	2018年3月7日現在
		円	円
(A)	資産	37, 491, 502, 512	40, 259, 088, 630
	コール・ローン等	466, 992, 682	652, 758, 765
	次世代米国代表株マザーファンド(評価額)	30, 760, 509, 830	36, 688, 329, 865
	未収入金	6, 264, 000, 000	2, 918, 000, 000
(B)	負債	4, 523, 340, 658	183, 602, 895
	未払収益分配金	4, 160, 508, 255	_
	未払解約金	212, 533, 094	34, 671, 557
	未払信託報酬	149, 957, 291	148, 591, 999
	未払利息	766	1, 191
	その他未払費用	341, 252	338, 148
(C)	純資産総額(A-B)	32, 968, 161, 854	40, 075, 485, 735
	元本	32, 967, 577, 304	40, 617, 567, 626
	次期繰越損益金	584, 550	△ 542, 081, 891
(D)	受益権総口数	32, 967, 577, 304 🗆	40, 617, 567, 626 □
	1万口当たり基準価額(C/D)	10,000円	9, 867円

### ○損益の状況

			第18期	第19期
	項	目	2017年9月8日~	2017年12月8日~
			2017年12月7日	2018年3月7日
				円
(A)	配当等収益		Δ 51,6	43 △ 53, 307
	受取利息		1, 4	20 –
	支払利息		△ 53,0	63 △ 53, 307
(B)	有価証券売買損益		4, 088, 422, 9	07 △698, 138, 866
	売買益		4, 780, 979, 1	58 3, 557, 585
	売買損		△ 692, 556, 2	51 △701, 696, 451
(C)	信託報酬等		△ 150, 298, 5	43 △148, 930, 147
(D)	当期損益金(A+B+C)		3, 938, 072, 7	21 △847, 122, 320
(E)	前期繰越損益金		436, 152, 1	79 196, 353, 934
(F)	追加信託差損益金		△ 213, 132, 0	95 108, 686, 495
	(配当等相当額)		( 161, 897, 0	10) ( 271, 277, 124)
	(売買損益相当額)		(△ 375, 029, 1	05) (△162, 590, 629)
(G)	計(D+E+F)		4, 161, 092, 8	05 △542, 081, 891
(H)	収益分配金		△4, 160, 508, 2	55 0
	次期繰越損益金(G+H)		584, 5	50 △542, 081, 891
	追加信託差損益金		△ 213, 132, 0	95 108, 686, 495
	(配当等相当額)		( 165, 845, 5	77) ( 282, 779, 989)
	(売買損益相当額)		(△ 378, 977, 6	72) $(\triangle 174, 093, 494)$
	分配準備積立金		213, 716, 6	45 197, 662, 645
	繰越損益金			−

- (注) (B) 有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。
- (注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
- (注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

#### <注記事項>

①作成期首(前作成期末)元本額 39,691,346,507円 作成期中追加設定元本額 13,720,075,712円 作成期中一部解約元本額 12,793,854,593円 また、1口当たり純資産額は、作成期末0.9867円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は542,081,891円です。

③分配金の計算過程

<b>の力能並の計券過性</b>		
項目	2017年9月8日~ 2017年12月7日	2017年12月8日~ 2018年3月7日
費用控除後の配当等収益額	138, 704, 690円	1, 308, 711円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	3, 799, 368, 031円	一円
収益調整金額	165, 845, 577円	282, 779, 989円
分配準備積立金額	436, 152, 179円	196, 353, 934円
当ファンドの分配対象収益額	4,540,070,477円	480, 442, 634円
1万口当たり収益分配対象額	1,377円	118円
1万口当たり分配金額	1,262円	一円
収益分配金金額	4, 160, 508, 255円	-円

### 〇分配金のお知らせ

	第18期	第19期
1万口当たり分配金(税込み)	1,262円	0円

- ◆分配金は各決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。
- ◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。
- ◆課税上の取り扱い
- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金 (特別分配金)」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、 下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%)の税率で源泉徴収(申告不要)されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。

#### ※法人受益者に対する課税は異なります。

- ※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
- ※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。
- ※NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。
- \*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (https://www.am.mufg.jp/) をご覧ください。

#### 「お知らせ」

- ①当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。 (変更前(旧) http://www.am.mufg.jp/ → 変更後(新) https://www.am.mufg.jp/)(2018年1月1日)
- ②2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%(法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。))の税率が適用されます。

### 次世代米国代表株マザーファンド

#### 《第10期》決算日2018年3月7日

[計算期間:2017年9月8日~2018年3月7日]

「次世代米国代表株マザーファンド」は、3月7日に第10期の決算を行いました。 以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第10期の運用状況をご報告申し上げます。

主として米国において取引されている次世代の米国経済の主役となり得ると委託会社が判断した企業の株式に投資を行い、信託財産の成長をめざします。株式への投資にあたっては、今後の経済環境、社会構造に関する見通しを基に、変化に対応し成長が見込まれる投資銘柄を厳選し、30銘柄程度に投資を行います。株式の組入比率は原則として高位を保ちます。組入外貨建資産については、原則として為替へッジを行いません。主要運用対象米国の株式を主要投資対象とします。

主 な 組 入 制 限 株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

#### 〇最近5期の運用実績

決	算	期	基	準	価 期 騰	額 中 落 率	( 参 考 ダウ・ジョーン (円換算ベース)	指数) ズ工業株価平均 期 中 騰落率	株 式組入比率	株 式	純総	資 産 額
				円	/11/69	%		%	%	%		百万円
6期(	(2016年3月	月7日)		14, 165		△ 1.5	12, 276	0.9	95.8	_		54, 740
7期(	(2016年 9 月	月7日)		13, 696		△ 3.3	11, 930	△ 2.8	96. 9	_		50, 338
8期(	(2017年3月	月7日)		16, 869		23. 2	15, 163	27. 1	95.8	_		47, 845
9期(	(2017年 9 月	月7日)		17, 480		3.6	15, 117	△ 0.3	98. 7	_		38, 251
10期(	(2018年3月	月7日)		19, 591		12. 1	16, 686	10.4	98.8	_		41, 283

- (注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。
- (注) ダウ・ジョーンズ工業株価平均(ダウ工業株30種)とは、ダウ・ジョーンズが米国を代表する30銘柄を選出し指数化したものです。日本では、「ダウ平均」、「NY (ニューヨーク) ダウ」、「ダウ工業株30種」などと呼ばれています。当ファンドは、委託会社等の責任のもとで運用されるものであり、ダウ・ジョーンズは、その運用成果および当ファンドの取引に関して、一切の責任を負いません。ダウ・ジョーンズ工業株価平均(円換算ベース)は、ダウ・ジョーンズ工業株価平均をもとに、委託会社が計算したものです。
- (注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業目の値を使用しております。
- (注) 「株式先物比率」は買建比率 売建比率。

### 〇当期中の基準価額と市況等の推移

年	月	月	基	準	価		額	( 参 考 ダウ・ジョーン	指数) ズ工業株価平均	株	式	株	47 1	式
·		• •			騰	落	率	(円換算ベース)	騰落率	組入	、比 率	先	物」	北 率
	(期 首)			円			%		%		%			%
2	017年9月7日	Ħ		17, 480			_	15, 117	_		98. 7			_
	9月末			18, 516			5.9	16, 018	6.0		97.7			_
	10月末			19,090			9.2	16, 774	11. 0		97.7			_
	11月末			19, 474			11.4	17, 030	12. 7		96. 9			_
	12月末			20, 418			16.8	17, 818	17. 9		97.9			_
	2018年1月末	£		20, 767			18.8	18, 010	19. 1		97. 3			_
	2月末			20, 329			16.3	17, 321	14. 6		96. 9			_
	(期 末)													
2	018年3月7日	Ħ		19, 591			12. 1	16, 686	10. 4		98.8			_

- (注)騰落率は期首比。
- (注) 「株式先物比率」は買建比率-売建比率。

#### 〇運用経過

- ●当期中の基準価額等の推移について
- ◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ12.1%の上昇となりました。

### 基準価額等の推移



(注) 参考指数は期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

#### ●投資環境について

- ◎米国株式市況
- ・当期の市況は、上昇しました。株高の継続や堅調な住宅価格を受けて、消費マインドがした。 で、消費では、小売売上高が堅調に推移した。 等、米国景気の拡大傾向が好感されました。 等、米国景気の拡大傾向が好感されました。 国企業の業績も好調に推移した他、税制改ことが 素成立により景気がい高まった。 2018年2月に がの追い風となり第から市場のがより、 では、一定の買いが入り、調整する おいことから下値では一定の買いが入りり、 では、もみ合い局面となり期末を迎えています。

#### ◎為替市況

・期首に比べ、対米ドルで3.3%の円高・米ドル安 となりました。

- ●当該投資信託のポートフォリオについて
- ・米国の株式を主要投資対象とし、値上がり益の 獲得をめざして運用を行いました。銘柄選定に あたっては、今後の経済環境、社会構造に関す る見通しを基に、変化に対応し成長が見込まれ る投資銘柄を厳選し、約30銘柄に投資を行いま した。
- ・なお、当期においては以下の銘柄入れ替えを 行っています。

ヘルスケア業種:バイオ企業の「CELGENE CORP」、総合ヘルスケア企業の「JOHNSON & JOHNSON」を売却し、高度外科手術システムを扱う「INTUITIVE SURGICAL INC」、歯列矯正機器の開発と販売を行う「ALIGN TECHNOLOGY INC」の組み入れを行いました。

資本財・サービス業種:共に産業関連大手の「UNITED TECHNOLOGIES CORP」、「FORTIVE CORP」を売却し、制御装置大手の「ROCKWELL AUTOMATION INC」、電動工具大手の「STANLEY BLACK & DECKER INC」の組み入れを行いました。

生活必需品業種:生活関連用品大手の「PROCTER & GAMBLE CO/THE」を売却し、業務用食材販売を営む「SYSCO CORP」の組み入れを行いました。

一般消費財・サービス業種:コーヒーチェーン 大手の「STARBUCKS CORP」を売却し、ハンバーガー チェーン大手の「MCDONALD'S CORP」の組み入れを 行いました。

情報技術業種:ソーシャルネットワーク大手の「FACEBOOK INC-A」を売却し、半導体製造装置大手の「ASML HOLDING NV-NY REG SHS」の組み入れを行いました。

エネルギー業種:石油サービス大手の「SCHLUMBERGER LTD」を売却し、同業の「HALLIBURTON CO」の組み入れを行いました。

素材業種:総合化学大手の「DOWDUPONT INC」を売却し、建設資材大手の「VULCAN MATERIALS CO」の組み入れを行いました。

・また、企業ごとの業績動向を踏まえつつ、株価 の動きに対応した個別銘柄の組入比率調整を随 時行っています。 銘柄入れ替えのポイントは以下の通りです。

#### ◎新規組入銘柄

- ・「INTUITIVE SURGICAL INC」:高い成長が見込まれる高度外科手術システム分野において、機能的に優れた製品を提供していることを評価。
- 「ALIGN TECHNOLOGY INC」: 取り扱う歯列矯正機器の性能的な優位性とマーケティング力を評価。
- 「ROCKWELL AUTOMATION INC」: 今後自動化が進む 北米地域の工場からの需要増を期待。
- 「STANLEY BLACK & DECKER INC」: 景気回復の恩恵を広範に受けることを評価。
- ・「SYSCO CORP」: 食材配送業界において、システムの効率性と事業規模での優位性を有していることを評価。
- ・「MCDONALD'S CORP」: 朝食メニューを終日提供に 拡大する等のメニューの改善が功を奏し、既存 店売上が底打ちしたことを評価。
- ・「ASML HOLDING NV-NY REG SHS」: 最先端製品で の技術力の優位性を評価。
- •「HALLIBURTON CO」:原油価格上昇の恩恵を大きく受けることを評価。
- 「VULCAN MATERIALS CO」: 米国景気の全般的な拡大、ならびに予想されるインフラ投資増大の恩恵を受けることを評価。

### ◎売却銘柄

- 「STARBUCKS CORP」: 既存店売上の伸び悩み懸念。
- 「CELGENE CORP」:業績の下方修正、新薬開発が 順調に進展していないことへの懸念。
- 「JOHNSON & JOHNSON」、「UNITED TECHNOLOGIES CORP」、「FORTIVE CORP」、「PROCTER & GAMBLE CO/THE」、「FACEBOOK INC-A」、「SCHLUMBERGER LTD」、「DOWDUPONT INC」: 特に悪材料はなかったものの、成長性の観点から新規組入銘柄との比較において、相対的魅力度が低下したと判断し、売却。

以上のような投資判断を行った結果、組入銘柄の株価上昇により、基準価額は上昇しました。パフォーマンスに寄与・影響を与えた主な銘柄は以

下の通りです。

#### (プラス要因)

#### ◎銘柄

- ・「BOEING CO/THE」: 高い参入障壁を評価したことに加え、民間航空部門における受注回復を期待し、期首より保有しました。受注、業績が順調に推移し、株価が上昇しました。
- ・「CATERPILLAR INC」: 米国景気回復やインフラ投資増による建機需要の回復を見込み、期首より保有しました。業績が順調に推移し、株価が上昇しました。

#### (マイナス要因)

#### ◎銘柄

- ・「CELGENE CORP」: バイオ企業としての新薬開発 力の高さや既存薬品の成長余力等に注目し、期 首より保有しました。しかしながら、新薬の開 発が順調に進展せず、業績の先行きへの不透明 感が高まり、株価が下落しました。業績不透明 感の高まりを受け、全株売却しました。
- ・「MCDONALD'S CORP」: 朝食メニューを終日提供に拡大する等のメニューの改善が功を奏し、既存店売上が底打ちに転じたこと等を評価し、期中に新規に組み入れを行いました。新しいバリューメニューが低調な滑り出しという見方が一部で広がり、株価は調整しました。中長期的な既存店売上の回復傾向に変化はないという判断から継続保有としています。

### 〇今後の運用方針

#### ◎運用環境の見通し

- ・ダウ・ジョーンズ工業株価平均は上昇基調で推移していますが、中長期的な上昇トレンドは今後も継続するものとみています。過去数十年の米国株式市況上昇を支えた経済規模の大きさと成長力、巨大な個人消費市場の存在、さらには活発なイノベーションと新陳代謝が盛んな経済構造等は今後も市況上昇の要因になると思われます。
- ・景気循環面でも、米国経済のペースは明らかに 拡大局面にあり、株式市況は景気と企業業績の 回復を織り込むものと判断しています。
- ・足下の上昇により、株価の割高感を懸念する向 きもありますが、今後の景気と企業業績の伸長 により薄れると判断しています。

#### ◎今後の運用方針

・大きな変化が起こっている分野に注目し、変化 に機動的に対応し、恩恵を受け得る新しい次世 代企業に投資します。現在は、インターネット、 バイオ、医療機器などの分野の重要性の高まり、 同分野での新しい企業の台頭に注目しています。 同時に、絶え間ない自己革新により、環境変化 に対応し続けている伝統的な老舗企業にも目を 向け、より高い投資成果の達成をめざします。 市況上昇により、一部銘柄では株価の割安感が 薄れていることも事実であり、今後の成長余地、 株価水準などを踏まえた銘柄選択がますます重 要となったと判断しています。

### ○1万口当たりの費用明細

#### (2017年9月8日~2018年3月7日)

Įį	<u> </u>	B		=	当	期		項 目 の 概 要
7	٠	Н		金	額	比	率	次 口 り 帆 安
					円		%	
(a) 売	買委詢	托 手 数	料		42	0. 2	213	(a)売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(	株	式	)	(	(42)	(0.2	213)	
(b) 有	価 証 参	条 取 引	税		0	0.0	002	(b)有価証券取引税=期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(	株	式	)	(	(0)	(0.0	002)	
(c) そ	の f	也費	用		1	0.0	005	(c)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(	保 管	費用	)	(	(1)	(0.0	005)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
合		計			43	0. 2	220	
:	期中の平均	]基準価額/	<b>は、</b> 1	9, 765	円です	0		

- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに 小数第3位未満は四捨五入してあります。

### 〇売買及び取引の状況

(2017年9月8日~2018年3月7日)

### 株式

		買	付			売	付	
	株	数	金	額	株	数	金	額
外		百株	千アメリ	リカドル		百株	千アメリ	カドル
国 アメリカ		23, 489		316, 381		26, 449	93	24, 069

(注) 金額は受渡代金。

## 〇株式売買比率

(2017年9月8日~2018年3月7日)

### 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
(a) 期中の株式売買金額	70,998,826千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	40,740,884千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.74

<sup>(</sup>注) (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

### 〇利害関係人との取引状況等

(2017年9月8日~2018年3月7日)

### 利害関係人との取引状況

		四八烯林			士山城林			
区	分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	<u>B</u> A	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{\mathrm{D}}{\mathrm{C}}$	
		百万円	百万円	%	百万円	百万円	%	
株式		35, 023	1, 223	3. 5	35, 974	1, 312	3.6	
為替直物取引		14, 638	_	_	16, 177	9, 206	56. 9	

### 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項	<b>B</b>	当	期	
売買委託手数料総額(A)			89,0	74千円
うち利害関係人への支払額(	B)		3, 2	97千円
(B) / (A)			3	. 7%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱 東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、モルガン・スタンレーMUFG証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券です。

## ○組入資産の明細

(2018年3月7日現在)

## 外国株式

	期首(前期末)	当 期 末			
銘 柄	柄 株 数 株 数 評 価 額		五 額	業 種 等	
	1/4 — — — — — — — — — — — — — — — — — — —	1外 数	外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	百株	千アメリカドル	千円	
BOEING CO/THE	1, 117	1,039	36, 262	3, 830, 088	資本財
VERIZON COMMUNICATIONS INC	1, 140	1, 111	5, 435	574, 050	電気通信サービス
JPMORGAN CHASE & CO	1, 147	2, 196	25, 293	2,671,500	銀行
CATERPILLAR INC	1,480	1,526	23, 462	2, 478, 082	資本財
CHEVRON CORP	1, 261	1, 419	16, 126	1, 703, 326	エネルギー
CME GROUP INC	994	679	11, 525	1, 217, 341	各種金融
WALT DISNEY CO/THE	1, 202	654	6, 871	725, 764	メディア
GOLDMAN SACHS GROUP INC	932	774	20, 660	2, 182, 149	各種金融
HALLIBURTON CO	_	872	4, 004	422, 926	エネルギー
HOME DEPOT INC	1, 763	1,055	19, 180	2, 025, 878	小売
INTL BUSINESS MACHINES CORP	529	301	4, 687	495, 059	ソフトウェア・サービス
JOHNSON & JOHNSON	444	_	_	_	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
MCDONALD'S CORP	_	1,036	15, 664	1, 654, 465	消費者サービス
S&P GLOBAL INC	901	437	8, 346	881, 532	各種金融
3M CO	1,088	899	21, 027	2, 220, 903	資本財
PROCTER & GAMBLE CO/THE	847	_	_	_	家庭用品・パーソナル用品
ROCKWELL AUTOMATION INC	_	418	7, 586	801, 307	資本財
SCHLUMBERGER LTD	547	_	_	_	エネルギー
STANLEY BLACK & DECKER INC	_	387	5, 940	627, 389	資本財
SYSCO CORP	_	1, 188	7, 231	763, 775	食品・生活必需品小売り
UNITED TECHNOLOGIES CORP	580	_	_	_	資本財
UNITEDHEALTH GROUP INC	917	1, 381	31, 242	3, 299, 805	ヘルスケア機器・サービス
VULCAN MATERIALS CO	_	671	8,012	846, 270	素材
COSTCO WHOLESALE CORP	443	305	5, 846	617, 458	食品・生活必需品小売り
MICROSOFT CORP	1,860	1,519	14, 181	1, 497, 895	ソフトウェア・サービス
STARBUCKS CORP	1, 181	_	_	_	消費者サービス
ASML HOLDING NV-NY REG SHS	_	211	4, 279	452, 045	半導体・半導体製造装置
ALIGN TECHNOLOGY INC	_	171	4, 377	462, 307	ヘルスケア機器・サービス
GILEAD SCIENCES INC	1,350	464	3, 680	388, 728	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
INTUITIVE SURGICAL INC	_	221	9, 425	995, 537	ヘルスケア機器・サービス
AMAZON. COM INC	76	87	13, 498	1, 425, 758	小売
CELGENE CORP	750	_	_	_	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
APPLE INC	1, 272	1, 391	24, 580	2, 596, 168	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
MONSTER BEVERAGE CORP	1, 246	1,782	9, 921	1, 047, 956	食品・飲料・タバコ
VISA INC-CLASS A SHARES	1, 175	1, 342	16, 251	1, 716, 478	ソフトウェア・サービス
FACEBOOK INC-A	134	_	_	_	ソフトウェア・サービス
ALPHABET INC-CL C	24	15	1,662	175, 572	ソフトウェア・サービス
FORTIVE CORP	585	_	_	_	資本財

						期首(前	前期末)		当	期		末			
銘				杯	i	株	数	株	数	評	価	額	業	種	等
						1/1	奴	125	奴	外貨建金額	邦	貨換算金額			
(アメリカ)							百株		百株	千アメリカドル	/	千円			
DOWDUPONT IN	C						1,522		_	_		_	素材		
合 計	株	数	•	金	額	2	28, 519	2	5, 559	386, 267	' [	40, 797, 527			
合 計	銘	柄	数 <	比	率 >	]	30		30	_	T	<98.8%>			

- (注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。
- (注) 邦貨換算金額欄の〈 〉内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

### ○投資信託財産の構成

(2018年3月7日現在)

項目	当 期 末					
項 目 	評 価 額	比率				
	千円	%				
株式	40, 797, 527	92. 0				
コール・ローン等、その他	3, 570, 217	8.0				
投資信託財産総額	44, 367, 744	100.0				

- (注) 期末における外貨建純資産(43,740,934千円)の投資信託財産総額(44,367,744千円)に対する比率は98.6%です。
- (注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは 以下の通りです。

<u> </u>		
1 アメリカドル=105.62円		

### ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年3月7日現在)

#### 項 $\blacksquare$ 当期末 円 (A) 資産 47, 240, 336, 816 コール・ローン等 1, 475, 099, 619 株式(評価額) 40, 797, 527, 325 未収入金 4,904,791,879 未収配当金 62, 917, 993 (B) 負債 5, 957, 183, 108 未払金 2, 872, 592, 000 未払解約金 3,084,590,000 未払利息 1, 108 (C) 純資産総額(A-B) 41, 283, 153, 708 元本 21, 071, 984, 981 次期繰越損益金 20, 211, 168, 727 21, 071, 984, 981 (D) 受益権総口数

#### <注記事項>

①期首元本額 21, 883, 062, 451円 期中追加設定元本額 8,248,679,285円 期中一部解約元本額 9,059,756,755円 また、1口当たり純資産額は、期末1.9591円です。

1万口当たり基準価額(C/D)

### ○損益の状況

(2017年9月8日~2018年3月7日)

	項目	当 期
		円
(A)	配当等収益	322, 158, 359
	受取配当金	321, 855, 299
	受取利息	478, 380
	支払利息	△ 175, 320
(B)	有価証券売買損益	4, 013, 022, 148
	売買益	6, 664, 585, 228
	売買損	$\triangle$ 2, 651, 563, 080
(C)	保管費用等	△ 2,066,657
(D)	当期損益金(A+B+C)	4, 333, 113, 850
(E)	前期繰越損益金	16, 368, 407, 407
(F)	追加信託差損益金	7, 948, 170, 715
(G)	解約差損益金	△ 8, 438, 523, 245
(H)	計(D+E+F+G)	20, 211, 168, 727
	次期繰越損益金(H)	20, 211, 168, 727

- (注) (B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
- (注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設 定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注) (G) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額 を差し引いた差額分をいいます。
- ②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

次世代米国代表株ファンド

次世代米国代表株ファンド (為替ヘッジあり)

次世代米国代表株ファンド(FOFs用)(適格機関投資家限定) 合計

18,727,134,840円

774, 764, 582円

1,570,085,559円 21,071,984,981円

#### 「お知らせ」

当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。 (変更前(旧) http://www.am.mufg.jp/ → 変更後(新) https://www.am.mufg.jp/) (2018年1月1日)

19.591円